

# 南押原地区

人口	男	1,935人	女	1,910人	計	3,845人	世帯数	1,422世帯
----	---	--------	---	--------	---	--------	-----	---------

※人口、世帯数は令和4年1月1日時点

## 《事業概要【分野】と主な支出内容》

### ①友遊館事業 【福祉】

地域の課題である、人口減少、少子高齢化、人間関係の希薄化、郷土愛の精神不足等の課題解決のため、福祉事業6事業、支援事業（福祉事業を支える）4事業、文化・芸術育成事業5事業により地域の活性化を図る。

福祉事業・・・幼児・子ども・高齢者サロン、学習室、おかいものツアー、子ども食堂  
 支援事業・・・友遊館カフェ、駄菓子屋、農産物販売、貸自転車  
 文化・芸術育成事業・・・南押原博物館、ギャラリー、将棋教室、田んぼアート、  
 健康麻雀教室  
 友遊館の施設設備改修（内装、空調、カフェ・食堂設備等）、各事業運営の備品、消耗品等

### ②ふるさと祭り事業 【住民交流】

各地区で行われていた盆踊りを1か所で行うことによる集客、また魅力的な催しを行うことにより幅広い地域住民の参加を促した。

催し用舞台の購入、ジャズバンド等を招致

## 《収支決算》

### 【収入（円）】

費目	H29	H30	H31/R1	R2	R3	計
地域の夢補助金	5,804,000	3,086,000	1,521,000	2,174,728	858,139	13,443,867
その他補助金	0	0	0	0	0	0
自己資金	647,037	2,210,488	1,610,835	246,577	292,961	5,007,898
計	6,451,037	5,296,488	3,131,835	2,421,305	1,151,100	18,451,765

### 【支出（円）】

事業No	H29	H30	H31/R1	R2	R3	計
事業①	5,274,856	5,296,488	3,131,835	2,421,305	1,151,100	17,275,584
事業②	1,176,181	0	0	0	0	1,176,181
計	6,451,037	5,296,488	3,131,835	2,421,305	1,151,100	18,451,765

## 《事業への取り組みを振り返って》

南押原コミュニティ推進協議会長  
鈴木 節也



友遊館事業は、人口減少、少子高齢化に危機感を持ち、何か出来る事はないかと危惧していた時に、鹿沼市から、「閉館する児童館の建物を地域で活用出来ないか」との話から、事業の検討が開始されました。正式に旧児童館を鹿沼市から借り受け、地域の夢実現事業の拠点【友遊館】として、地域住民の居場所づくりが、平成28年8月にスタートしました。当初は、幼児・子ども・高齢者サロン、友遊館カフェ、駄菓子屋、田んぼアートの6事業からスタートして、現在は15の事業を展開しています。その内容については、福祉事業とその事業を財政的に支える支援事業、文化・芸術育成事業に分け5年間実施してきました。



友遊館外観



子どもサロンイベントの様子

### 1 福祉事業

#### ① 幼児サロン

幼児と育児中の親とスタッフが交流。コミュニケーションを図りながら一時を過ごす事業。

幼児の親以外の人との触れ合い。親同士の交流は、大人同士（ママ友）の発展につながり、育児中の孤独化、悩み等を解消するのに役立っています。特に、ママ友の広がり大きく、情報交換の場となっています。また、5年間のうちには、幼児が幼稚園に行くようになったので時間が作れるようになったと、スタッフに加わってくれた人もいました。

#### ② 子どもサロン

学童保育に行かない、行けない児童を対象として居場所を提供。

学習、運動と学校後の児童の成長を見守る事業。

スタッフの計画的な運営によって、場所を提供するだけでなく、楽しい、満足、充実生活の声を聞く事が出来ました。

長期休業中は地域の子どもと一緒に交流できるイベントを行うなど、他校の子との触れ合いは、交流の広域化が見られ、中学校での友達づくりにも役立っています。

③ 高齢者サロン

高齢者の居場所を多くすることにより、仲間づくりが図られ、交流の機会が幅広くなる事業。

今まで狭い範囲での交流から、多くの人とコミュニケーションが図られ（～ちゃん、ここに嫁に来てたんだ）新しい事実も知ることができる  
と好評です。

集まりの最後に飲むコーヒーは「至福の時」と  
いわれています。

広い地域からくると、狭い地域では行きづらい  
人も、来やすいといわれています。



高齢者サロン

④ 学習室

地域は、都市部より学習環境が整っていない。だれもが等しく教育を受けられるよう考えて  
の事業。（教育の機会均等）

教育関係者がスタッフのため、的確な指導がな  
されているとの評価をもらっています。「も  
う少し時間を増やしてほしい」「スタート時間  
を遅らせて」・・・等の意見に耳をかくしてく  
れるスタッフなので充実しています。

おかげ様で狙っていた高校へ入学できたとの  
感謝のこともいただいています。教師は退職  
後地域に出ないという汚名返上にもなって  
います。



学習室

⑤ おかいものツアー

買い物困難な高齢者の方への交通手段として、希望者に希望の場所へ車で案内する事業。

買ってきてもらうことよりも、自分で行って、商品を見ながら買う事の喜びを、参加者は  
楽しんでます。地域をまわってくれるのがうれしいとの声もあります。

\*買い物支援事業によって参加者が減少しています。

⑥ 子ども食堂

コロナ禍の中、テイクアウトのみ、2回実施しました。

子どもばかりではなく、シルバー世帯、一人暮らしの高齢者の注文もありました。  
大変おいしいと評判がいいようです。

## 2 支援事業

### ⑦ 友遊館カフェ

収益をあげ、福祉活動を支援すると共に、気軽に住民が集える居場所づくり事業。

第1水曜日は、15の事業が同一日に開催しているため、多くの住民（高齢者、スタッフ、一般の人）が集う場の一服の清涼剤となっています。高齢者からは「昔、若かりし頃、喫茶店にはなかなか入れなかった。今こうしてこれられると、若い頃の願望が満たされてうれしい」との声。常連客も多く、また、他の事業のスタッフが終了後、カフェに集まり交流を図り、楽しい雰囲気の中で、スタッフの居場所にもなっています。



友遊館カフェ

### ⑧ 駄菓子屋

子ども達の金銭感覚を養うと共に、子ども達が多く集まる居場所づくり事業。

持っている小遣いの中で、いくら使い、その中で何をいくつ買えるか、子ども達が考えている姿を見るとやりがいを感じられます。他事業の中で駄菓子を多く購入してくれるため、売り上げがあがっています。高齢者が孫のためにと買いに来ていたり、店にない商品を注文していくまでになっています。



駄菓子屋

### ⑨ 農産物販売

地域の農産物を直売、地域内からの調達であり、地域おこしと共に交流の場づくりをねらっている事業。

売り手と買い手のやり取りは、本人ばかりでなくまわりも元気づけます。高齢者が庭先でつくる野菜類の仕入れであり、趣味と実益を兼ねたもので、心身共に充実させています。女性スタッフは昼食時の買い物をするにより、家にいる人（トーチャン、ジーチャン、バーチャン）に喜ばれています。



農産物販売

### ⑩ 貸自転車

榎木駅で降りる人、地域の中を歴史探訪する人の交通手段となっています。5段ギア付きなのでよろこばれています。歴史探訪に役立っています。

### 3 文化・芸術育成事業

#### ⑪⑫ 南押原博物館、ギャラリー

地域内の歴史を知り、郷土を愛する心を育てる、また、文化の作品を展示することにより生きがいにつながる事業。

地域内に展示場所があることは、文化人の更なる励みになっている。身近な地域の歴史を、特に小・中学生が知り興味を示すと共に、探索もするようになっています。

#### ⑬ 将棋教室

新型コロナウイルスの影響で教室を開催できない状況です。

#### ⑭ 田んぼアート

地域おこしの事業

3年間実施しましたが、その後はコロナの影響で実施できませんでした。各单位自治会で規模を小さくして実施しています。



田んぼアート

#### ⑮ 健康麻雀教室

新型コロナウイルスの影響で教室を開催できない状況です。

友遊館事業はボランティアの皆さんのあたたかい心に支えられながら、地域の人達が気軽に互いに交流を図れる「居場所づくり」を目指しているものです。人口減少が進行している地域の中にあっては、欠くことの出来ない大切な居場所、心の支えとなる交流の場として、更に充実していきたいと思えます。

ふるさと祭り事業は、アイデア会議において、学区ごとに実施していた盆踊りを1ヶ所で行うことで南押原地区住民の交流が深まり、踊りの輪、心の和を図り、また、子ども達に地元の良さを知ってもらえる事業をという事で、平成27年に第1回ふるさと祭りを楡木小学校の校庭で実施、第2回からは新しく建設されたコミュニティセンターに会場を変更して実施してきました。更なる集客や交流、事業の継続を目指して、平成29年度に地域の夢実現事業において、催し用舞台の整備を行いました。その年はジャズオーケストラを招致して演奏をしていただき、お祭りを盛り上げることができました。ここ2年間は新型コロナウイルスの関係で、ふるさと祭りを行っておりませんが、毎年大勢の住民の方々においでいただき、楽しんでいただけたことで、目的は十分に達成できたのではないかと考えております。今後も事業継続のため活用していきたいと思えます。



ふるさと祭り

# 東大芦地区

人口	男	1,411人	女	1,444人	計	2,855人	世帯数	1,013世帯
----	---	--------	---	--------	---	--------	-----	---------

※人口、世帯数は令和4年1月1日時点

## ≪事業概要【分野】と主な支出内容≫

### ①文化観光交流事業【観光】

景観、環境、歴史、文化などの財産を生かしながら、これらの財産の保全や周知・啓発活動に取り組むと同時に、様々な人々との交流を通じて、生きがいや充実した生活を送れる地域づくりを進める。

「東大芦地区観光ガイドマップ」4,000部

### ②こども育成交流事業【学習】

地域の自然を生かした体験学習により、子どもの健全育成と社会に順応する力を育成する。

自然観察会、稲作体験事業 水稻苗代

### ③交流拠点確立事業【拠点整備】

出合いの森ゲートボール場を天候に左右されることなく、多目的に活用することで地域の交流拠点とするとともに、利用者の健康づくりや生きがいづくりに寄与する。

明り取りの屋根改修、防風カーテン設置

## ≪収支決算≫

### 【収入(円)】

費目	H29	H30	H31/R1	R2	R3	計
地域の夢補助金	—	430,071	4,485,478	3,125,068	504,946	8,545,563
その他補助金	—	0	0	0	0	0
自己資金	—	3,550	0	0	0	3,550
計	—	433,621	4,485,478	3,125,068	504,946	8,549,113

### 【支出(円)】

事業No	H29	H30	H31/R1	R2	R3	計
事業①	—	117,614	50,000	25,000	370,000	562,614
事業②	—	316,007	144,598	147,558	134,946	743,109
事業③	—	—	4,290,880	2,952,510	0	7,243,390
計	—	433,621	4,485,478	3,125,068	504,946	8,549,113



《事業への取り組みを振り返って》

文化観光交流事業【観光ガイドマップ作り】



青少年育成市民会議  
会長 福田 朗さん

文化観光交流事業では、東大芦地区の観光ガイドマップ作りに大人だけでなく児童生徒が編集員として参加することで世代間の交流を図りました。また、子どもたちの意見やアイデアを取り入れることで、これまでと違った目線で地域の魅力ある自然やアクティビティを紹介することができました。

地域の皆さんの力を合わせて完成したガイドマップを手にとった方に、東大芦にぜひ行ってみたい、来てよかった、また来たい、と思ってもらえるよう東大芦の素晴らしさを広域に発信するツールの一つとして活用し、地域交流の活発化を図っていききたいと思います。



ガイドマップ編集員  
高校1年 寄川実里さん

このマップ作りに参加して、私が感じたことは、地域の方々の優しさです。私が緊張してあまり話せないでいた時に、気軽に担当の方達が話しかけてくれたり、話題を振ってくれたりして、私が話しやすい空間を作ってくださいました。この経験から、人の優しさのありがたさを実感することができました。たくさんの人とマップ作りに携わり、改めて周りの人の優しさを感じました。

地域の方々の優しさに触れ、東大芦の自然の素晴らしさ、美味しいもの、素敵なお店などを知り、沢山の方々に良い所で育ってきたのだなあと思える事ができると思います。良い経験ができました。

◆◆◆地域の施設や史跡の紹介◆◆◆



出会いの森いちご園 いっぱいとれたよ



下沢薬師堂 どっこいしょ、一休み



《事業への取り組みを振り返って》

こども育成交流事業【農業体験学習】



ふれあいみどりの村  
代表 寄川良一さん

子どもの頃から「農業」や「農村」に親しむことは、農業を理解し、次代の農業を担う人材の育成と確保を図るうえで大変重要です。

農業体験事業では、稲の栽培や収穫体験と併せて、伝承行事である「藁でっぼう」の作り方を地域の方が子どもたちに教えることで文化の継承と併せて異世代間交流を図ることができました。

また、農業用水路や田園での水遊びや生き物観察は、子どもたちが自然や生き物に触れ合うことを通じて豊かな人間形成を図る上で、大きな役割を果たすものと期待しています。

今後も事業の裾野を広げながら、地区内にとどまらず多くの子どもたちに体験の機会を提供していきたいと考えています。



市立西小学校  
校長 善林克江さん

農業体験には西小学校5年生が参加し、稲の収穫や脱穀、「藁でっぼう」づくりを体験しました。農村ならではの様々な体験は、作物を育てることの苦労や、それに勝る収穫の喜びや感動、発見につながる貴重な学びの場となりました。

また、田んぼに入り稲や土、生き物に触れ、出会ったことの無い人たちと交流するという非日常の体験は、子どもたちの表情を生き生きと輝かせ、身も心もまた一つ大きくなったように感じました。

体験学習にご協力くださった地域の皆様に心から感謝申し上げるとともに、子どもたちが地域の文化や生活を学ぶ機会として、これからも農業体験学習を継続していきたいと思えます。

◆◆◆農業体験学習の様子◆◆◆



はぜ掛けするとお米が美味しくなるんだよ！



「藁でっぼう」づくりのコツはね、ぎゅっと！ぎゅーっとね







《事業への取り組みを振り返って》

交流拠点確立事業【出会いの森ゲートボール場の改修】



鹿沼市ゲートボール協会  
会長 石川正明さん

鹿沼市はゲートボールが大変盛んで、会員数においても県内8支部の中で最大となっています。その中でも東大芦地区の会員が7割を占めるなど、当地区がゲートボールの聖地と呼ばれる所以です。

また、当地区には全天候型の競技場が酒野谷の出会いの森、引田の芦の郷公園に設置されており、年間約15回に及ぶ大小様々な大会が天気に左右されることなく開催できることが自慢です。

地域の夢実現事業による改修工事により、出会いの森ゲートボール場がこれまで以上に安心してプレーを楽しむことができるようになりました。今後は地域の交流拠点として様々な活用を図っていきたいと考えています。



酒野谷ゲートボール場  
利用者 渡邊孝子さん

私は身体の健康と体力の維持向上のために約7年前からゲートボールを続けており、仲間との交流やおしゃべりは何物にも代えがたい楽しみの一つとなっています。

改修工事のおかげで場内が明るくなり、冬でも寒い川風に凍えることなくプレーすることができるようになり、大変ありがたく感じています。

出会いの森総合公園は景色もよくキャンプやスポーツ以外にも様々なイベントが盛んに行われています。東大芦地区にとって地域交流のシンボリック施設であるゲートボール場が、これからも多くの方々の交流や憩いの場となることを期待しています。

◆◆◆酒野谷 出会いの森ゲートボール場の様子◆◆◆



設置が完了した防風カーテンを見るために集まった地域の皆さん



大きな明り取りからは日が差し込み、皆さんプレーに集中しています。



# 菊沢地区

人口	男	6,721人	女	6,769人	計	13,490人	世帯数	4,939世帯
----	---	--------	---	--------	---	---------	-----	---------

※人口、世帯数は令和4年1月1日時点

## 《事業概要【分野】と主な支出内容》

### ① 新規防犯灯整備事業【防犯】

「明るく住みやすいまち」を目指して、LED防犯灯を設置。自治会・育成会・老人会・消防団等の諸団体と協力し、維持管理及び防犯パトロールや交通安全指導を積極的に、通年を通して実施。

防犯灯設置(61基)・見守り活動用ベスト

### ② 桜のふるさと事業【観光】

将来の若者が「ふるさと」として顧み、活力とともに安らぎを感じられる地域とするため、子供たちとともに育てる「桜のふるさと事業」を展開し、桜の育成管理と交流事業を実施。

桜苗木・園芸用土・刈払い機・除草剤散布

### ③ 文化伝承事業【文化】

史跡の保存に努めるとともに、地域以外の多くの人に知ってもらうために、地域の文化を次世代につなげていく。

「木喰薬師堂」看板設置・「木喰の歌」CD作成

### ④ 千渡コミュニティ体制整備事業【住民交流】

地域に根差した人的ネットワークを再構築し、地域住民、特に高齢者、障害者、そして未来を拓く子どもたちが夢と希望を持ち、安心して生活できるコミュニティを創造する。

のぼり旗作成・お囃子備品修繕・防災用井戸設置

### ⑤ 糠塚山ふるさと公園整備事業【住民交流】

糠塚山周辺の里山を整備。菊沢地区の豊かな自然を守りながら、交流の場を提供していく。

樹木伐採・遊歩道整備

### ⑥ 地域のための防災啓発事業【防災】

住民の一人ひとりが防災意識を高められるような事業に取り組み、地域の安全は地域住民が協力し合い支え合いながら守る地域づくりを目指す。

防災啓発用教材・プロジェクター・パソコン・防災展示物パネル作成・先進地視察

## 《収支決算》

【収入(円)】

費目	H29	H30	H31/R1	R2	R3	計
地域の夢補助金	1,374,640	971,563	1,840,700	3,827,396	1,279,657	9,293,956
その他補助金	0	0	0	0	0	0
自己資金	105,588	104,013	466,056	988,583	138,638	1,802,878
計	1,480,228	1,075,576	2,306,756	4,815,979	1,418,295	11,096,834

## 【支出(円)】

事業No	H29	H30	H31/R1	R2	R3	計
事業①	256,122	303,598	241,056	236,600	0	1,037,376
事業②	549,466	171,863	200,000	68,274	65,289	1,054,892
事業③	500,000	50,415	0	23,242	0	573,657
事業④	174,640	549,700	465,700	1,265,203	355,138	2,810,381
事業⑤	—	—	1,400,000	2,384,800	0	3,784,800
事業⑥	—	—	—	837,860	997,868	1,835,728
計	1,480,228	1,075,576	2,306,756	4,815,979	1,418,295	11,096,834

## 《事業への取り組みを振り返って》

## ① 新規防犯灯整備事業【防犯】

菊沢地区玉田町は、ここ数年住宅地分譲が活発で、若い世代の人口増加が目立っています。それに伴い幼児・小中高生も増加しています。「安全・安心なまちづくり」のため、交通安全指導や登下校の見守りなどを住民の協力を得て実施しています。

「県道板荷玉田線」「千手町通り」「北鹿沼駅からの東通り・南通り」の主要道路などに防犯灯が整備されていないため、子どもたちの下校時や通勤帰りに事故に遭遇しかけたなどの不安の声が住民から寄せられました。

これらの課題解決のため、LED防犯灯を設置。また、自治会・育成会・老人会・消防団等の諸団体と住民が協力し、防犯パトロールや交通安全指導を積極的に年間を通して実施しています。

この事業により、地域住民からは、「明るくなり、安心だ」との声をいただいています。また、防犯パトロールに地域ぐるみで取り組むことにより、地域の防犯意識の向上が期待できます。



LED防犯灯を設置した主要道路

## ② 桜のふるさと事業【観光】

とちぎのふるさと田園風景百選にも選出されている菊沢地区見野では、人口減少が進んでいるなか、若者が地域に目を向け、地域に住み、地域づくりを継続していくことを目指し、安らぎと愛着を感じられる「ふるさと」づくりの一環として、黒川堤防沿いに桜200本を植栽し、子どもたちとともに育てる「桜のふるさと事業」を展開しています。

植栽作業には、自治会・育成会・高校生ボランティア・家族連れなど120名が参加し盛大に実施することができました。植栽後は、捕植、殺虫剤散布、除草作業等継続して実施していますが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、地域交流会の開催を中止せざるをえない状況にあります。



④ 千渡コミュニティ体制整備事業【住民交流】



のぼり旗で、事業をPRしています

菊沢地区千渡では、道路整備や宅地開発が進み、地域住民の心豊かな人間関係の構築、快適な環境整備が喫緊の課題です。また、高齢者や障害者福祉の推進も大きな課題です。地域住民、特に高齢者、障害者そして未来を拓く子どもたちが夢と希望を持ち、安心して生活できる千渡コミュニティを創造し、地区のコミュニティ強化を図るため、「向こう三軒両隣」を基本とした助け合いの体制「千渡あちこちネオネット」を構築し、地域コミュニティ協議会の設立と推進活動に取り組んでいます。

現在、この人的ネットワークを活用して、日常生活における高齢者の見守り活動やきれいなまちづくり推進活動など様々な地域活動に取り組み、大きな成果を上げています。

また、この「ネオネット」を基盤に防災活動も推進していきます。千渡自治会館敷地内への防災用井戸の設置、「千渡防災計画」の策定及び自治会内への配布などにも取り組んでいます。

⑤ 糠塚山ふるさと公園整備事業【住民交流】

菊沢地区仁神堂町の中心に位置し、山頂からは西に鹿沼市街、東には武子川の緩やかな流れを、北には雄大な男体山や日光連山を眺めることができる糠塚山は、地域住民に親しまれる場所でしたが、山林の整備が追いついていない状況でした。地域住民の交流の場として復活させるため、住民の協働による周辺の里山整備に取り組んでいます。

令和2年度に整備事業は完了しました。整備後には、近隣の家族連れからは、見通しが良くなり、安心して散歩ができるようになったといった声をいただいています。若い世代もウォーキングするなど、憩いの場として定着しつつあります。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響で当初予定していた三世代交流事業は実施することができていない状況です。



遊歩道が整備された糠塚山



植栽も行われ、交流事業の開催が楽しみです

## ⑥ 地域のための防災啓発事業【防災】

近年多発多様化している災害に対応するため、地域住民への防災に関する更なる啓発がより重要になっています。住民の一人ひとりが防災意識を高められるような事業に取り組んでいます。

令和2年度・3年度ともに新型コロナウイルス感染拡大の影響で、イベントの中止及び規模縮小を余儀なくされましたが、菊沢地区の防災意識の向上と防災知識・技能を持つ人材育成を目的に活動する「菊沢きずなプロジェクト実行委員会」を中心に、様々な活動に取り組みました。

視察研修や災啓発教材、プロジェクター・パソコンの購入により、研修指導スキルアップを図ることで、鹿沼市の生涯学習講座の企画に参画したり、市内小・中学校の授業へ講師として招かれたりする機会が増えました。教師からではなく、地域住民からの実践的な授業を受ける体験は、子どもたちの防災意識の向上の一助になることと手ごたえを感じています。

また、菊沢コミュニティセンター内の防災展示室のリニューアルにも取り組みました。実行委員会で何度も話し合いを重ね、「災害を我が事として考える」を合言葉に、分かりやすく、親しみやすい、きずなプロジェクトらしい展示を心がけました。リニューアル・オープンには、地区内外から多くの方に足を運んでいただき、(公財)市民防災研究所の坂口隆夫氏の講演会を開催し、参加者とともに、「地域防災を考える」一日となりました。

今後も、地域の安全は地域住民が協力し合い支え合いながら守る地域づくりを目指す事業に取り組んでいきます。



整備したプロジェクターで、親子防災教室



アイデアを出し合い、工夫を凝らした展示室